

牛久：学校周辺に見る自然

第9号 ひたち野西近隣公園

2015年10月31日発行

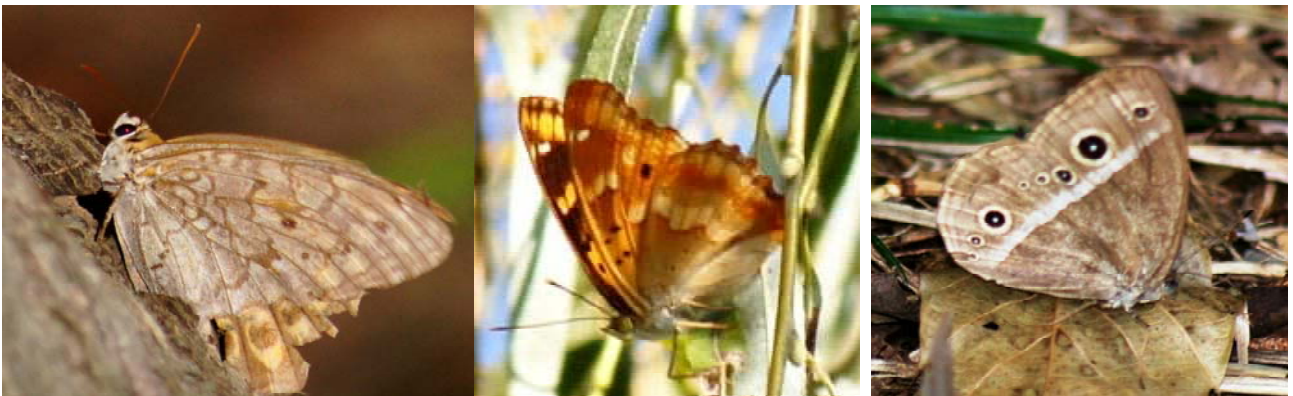
＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ⑨変わった暮らしをするチョウ＞

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、この日見られたチョウの中から、変わった暮らし方をしているなかまを紹介。



成虫で冬を越すウラギンシジミ(左)とムラサキシジミ(中), ルリタテハ(右)。ウラギンシジミは腐りかけの果実や獣フンの汁を、ムラサキシジミは樹液を、またルリタテハは腐りかけの果実や樹液を吸う。

チョウの仲間の大部分は、さなぎや卵、幼虫で冬を越しますが、中には成虫で冬を越すものもいて、第1号で紹介したキタキチョウや次のウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ルリタテハなどもそうです。今回は見つかりませんでした。みずべ公園では他に成虫越冬のチョウとしてキタテハ、ヒメアカタテハもよく見られます。



サトキマダラヒカゲ(左)：樹液でもっともよく見かけるが、果実や獣フンにも来る。

コムラサキ(中)：樹液や獣フンが好きなようだが、ときに人の汗も吸いに来る。

ヒメジャノメ(右)：樹液や腐った果実によく来るが、獣フンにも来る。

またチョウといえば「花の蜜を吸う」のが当たり前と思いがちですが、中には変わったものを食べる(吸う)チョウもいます。例えば先ほどのウラギンシジミは腐りかけの果実や獣フンの汁を、ムラサキシジミは樹液を吸います。だから、これらのチョウは花のそばで待っていても観察できません。ルリタテハも腐りかけの果実や樹液、キタテハは花みつも果実も樹液も吸います。種類によって好みに差はあるようで、サトキマダラヒカゲはコナラやクヌギの樹液でもっともよく見かけますが、果実や獣フンにも来ます。ヒメジャノメは樹液や腐った果実によく来ますが、獣フンにも来ます。コムラサキは樹液や獣フンが好きなようですが、ときに人の汗も吸いに来ます。

その他、尿を吸うチョウもいるし、アゲハ類など花に来るチョウでも泥水を吸っていたりします。なぜでしょう？それぞれ、意味のあることのようにですよ。調べてみませんか？【理科支援員：宮内】